

愛知淑徳短大 神谷い代子  
○土田 正子

1. 社会情勢の変化は家事労働の社会化となり、被服調製に関する家事労働も軽減され、被服構成の動向は個性的被服の調製を楽しむ方向に向かっている。この現状は短大の被服指導にも大きく影響をおよぼしてきた。私たちは反省とともに移りゆく社会情勢に対処して衣生活運営の能力を養成できる被服指導を心ざす上に今後の指針を得たいと思い、全国短大の諸先生に調査表による御指導を願ったものである。

2. 調査方法 対象は全国短大 200 校、淑短家政学科生 500 名、調査期間は昭和 45 年 6 月、内容別紙 3 種類。

3. 解答を得た要項の一部を抜書する。1) 調査表における教材配当は従来と大差なく考察された。2) 既製被服の発達により学生の意欲が欠けてきたのではないか。その対策と意見。3) 低下しつつある基礎技術の習熟は縫製技術の練磨とともに既製服の上手な利用法、リフォーム等の面にも大切な部門であるとした意見。4) 被服構成部門と関連の深い教科目との緊密な関連が大切な問題ではないか。これについての対策と意見。5) 文化の発達は人間性不在の傾向あり、創意工夫と着る喜び、着せる喜び等精神的なものを失いたくないという意見。その他多くの御指導をいただき今後の指針として考察を重ねたいと考える。